

# 29P-0546

速乾性擦式アルコール手指消毒剤における手荒れ防止のための処方検討

○山本 佳奈<sup>1</sup>, 和田 侑子<sup>1</sup>, 下川 健一<sup>1</sup>, 石井 文由<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>明治薬大, <sup>2</sup>東京理大薬DDS研セ)

【目的】医療現場において医療従事者の手指消毒に繁用されている速乾性擦式アルコール手指消毒剤（以下、アルコール消毒剤と略す）は極めて高い殺菌力を有するが、生菌の細胞膜に障害を与えると同時に、皮膚表面の細胞にも影響を及ぼしていると考えられる。そのため、医療従事者の度重なる消毒によって引き起こされる手荒れが問題となっている。先行研究でアルコール消毒剤が皮膚に及ぼす影響を、数値化して評価する方法を提案した<sup>1)</sup>。本研究では、先行研究で示唆された肌荒れを抑制する傾向をより精度の高い機器を用いて再度検証を行った。また、手荒れへの対策方法としてアルコール消毒剤の処方についても検討した。

【方法】20～40代の男女に、せっけんによる手洗い後、各社アルコール消毒剤および処方した各種試験液を手によく摺り込んでもらい、消毒前と消毒後に、肌の水分、油分および弾力をCutometer MPA580を用いて3回測定しその平均値を測定値として評価した。なお、各種試験液は80%エタノール水溶液に、保湿剤としてグリセリン（5%、10%、20%）およびヒアルロン酸ナトリウム（0.01%、0.1%、1.0%）、スクワラン（0.01%、0.1%）を処方した各種試験液を使用した。

【結果および考察】肌に及ぼすアルコール消毒剤の影響としては、共通して水分、油分、弾力が低下する傾向にあり、特に油分は消失しやすいことがわかった。ヒアルロン酸やグリセリンなどの保湿成分が添加されているアルコール消毒剤は、添加されていないものと比較して水分や油分、弾力の低下が抑えられる結果となり、先行研究<sup>1)</sup>と同様の結果が得られた。また、処方した各種試験液を用いた実験から、保湿成分の配合が、濃度依存的に水分・油分の低下を抑える効果を確認できた。1) 三枝ら：第129年会日本薬学会P-087, 2009年3月, 京都。